

平成24年度科学研究費助成事業 実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 **3 2 6 0 4**
2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(B)
4. 研究期間 平成24年度～平成26年度
5. 課題番号 **2 4 3 1 0 1 2 2**
6. 研究課題名 安全な自転車利用促進を目指す循環型社会の新しい交通システム構築のための基盤研究
7. 研究代表者
- | 研究者番号 | 研究代表者名 | 所属部局名 | 職名 |
|-----------------|---------------------|-------|----|
| 3 0 1 5 7 1 1 9 | マイエ
カズオ
真家 和生 | 博物館 | 教授 |

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
1 0 1 6 8 6 1 9	ウエタケ 植竹 照雄	東京農工大学・(連合)農学 研究科(研究院)	教授
3 0 1 5 8 8 1 0	オカダ 岡田 明	大阪市立大学大学院 生活科学研究科	教授
1 0 3 1 1 7 8 9	ヤマオカ 山岡 俊樹	和歌山大学・ システム工学部	教授
0 0 1 0 6 2 6 2	キシダ 岸田 孝弥	労働科学研究所・ 研究部	主管研究員
8 0 0 7 8 3 1 0	ホリノ 堀野 定雄	神奈川大学 高安心超安全交通研究所	准教授

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的な内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。なお、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究「安全な自転車利用促進を目指す循環型社会の新しい交通システム構築のための基盤研究」の目的は、交通に関する意識調査や自転車事故の解析を実施し、安全な自転車乗車の条件を整理するとともに安全を確保する自転車や道路のデザインを追求することで、歩行者・自転車・車(オートバイ等を含む)の三者が満足する循環型社会に相応しい自転車利用促進を図るための基盤構築を目指すことであり、具体的には、1、「自転車と共に新しい住民参加型交通安全システムを構築し、その効果を検証する」、2、「自転車重大事故の原因を解析し類型化を図るとともに事故削減に向けた方策を見出す」、3、「自転車利用者自身の安定性確保戦略を解明するとともに事故回避能力の向上を探る」、4、「事故に遭遇しにくい視認性を高めた安全な自転車や道路構造をデザインし、効果を検証する」と設定している。本年度(平成24年度)の各班員個別の研究については、1については自転車シミュレーターを用いた地域の高齢者向けの安全運転教育を実施し、その効果について検討中である。2についてはアイカメラによる自転車運転時の視野分析を行い進路変更時や右左折時の視線の動きから安全運転への留意点を抽出中である。3については自転車の重心測定などから安定性や操作性について検討しており、4については特許との関連もあり具体的には記述できないものの自転車の視認性を高めるための試作を行っている状況である。また、これら情報を関連させつつ、自転車利用促進に向けた方策を検討するために公開シンポジウムを行った。

10. キーワード

- | | | | |
|-----------|----------|------------|-----------|
| (1) 自転車 | (2) 安全 | (3) 交通システム | (4) 循環型社会 |
| (5) 自転車事故 | (6) 安全教育 | (7) 高齢者 | (8) |